花のすさ

24

伊地知文庫
文庫20
162

文庫20
162

種玉庵宗祇作

辛巳老の浪六十小かうて再にさそふ
程りとする法よ死乃春月や秋をそう
朝の霜々の風狂約束やる露の
浪こととくとも今幾夜か待んむすき
ふ末のはもあをふりてしせの道て
秋山深こむる事いうをしさうけ紀あまり
て。古野(ハイ)はりのようやその中やこし迄
鴫のそもそ紀之某つて一冊るして贈

乃公なるあり、をりふし老いたる人（イナン）よよいしの
末の歌をれいの名付て老のとさみとや云へう
らん九連会の当初もりてにうりて世て
れぬ古名（イナン）よふりて思しとのつるこわさ
うて共乃（イナン）こにうる事の三ほ
あしく人の公役種（イナン）ほるしれ杉く時
くよもうして志の一ツ同をれとを云し
人さころ（イナン）風情（うれ）ほ（イナン）ほくうりをうはう
をふ（イナン）ほいうこにうりてあれ

ら世乃事いあはれ（ホイ）至初作ねれ共ん我
ありうくやそ（イナン）ほくうりをつく後
梅光園院殿（イナン）良基公供世す敷波と云
しるの給それなんそのさく作りさ
彼句共中よ
まこに月れ新をあるハ
徳さくふ岩尾そくれ乃あれの水敷波
是も徳の頃とろこ云事ち作れ
めつーまに（事）作（ホイ）ねを前句（ホイ）云風かて

大事よ(ヤイ)ゆゑ泪よ(ヤイ)こぼして
大やうにいふて
源山遊(イハヰ)その名てそ
きよ(ヤイ秋の)門のもと渡(タイ)ら
の砧をうて月とらふ
ふんうちゆゑまに月乃影
あやらん(イラン)とうふ
なゝを一句文よ(ヨイ)九及(ヨイ)
九乃やまてゆのこやふれ

[illegible]乃名(ナ)かつゝ乃川の
ゆる(ユルイ)ハ誰も九(タイ)る事(コトイ)よ(ヨイ)ゆう
ゝよ　久ゝ共中
繋りて国(ヤイ)ゆん
ゆる川ハ種ハ月の
種川ゝいうんため也
の中よおひうる
中よおひうれゝ生
我こゝ(ヤイ)ゆ

一冊
[illegible]

うつの人程の報ゐを得て
家内うちこぞり大事よろこび祝ふ者
あんとくと雨の止ぬうち一刻も早く入野よい島の陰へ
もやひ入れおもうまくさを
あてゝ舟に病ひのかくしを
成ぬくさはかるふ病ひて人をころし仕
事家内にこもりおるうちをまよと云
はゞ病人のごふ也
はやのむくひいさゝもあいはぬ也

月ふるうちをれ雪の朝ほの朝ほの朝ほの

珈一生は限とつてそ
曉をまつ仏よもあ
おにはゝ雨ハうく
後世の爰やなん
月をこしら
旧寺のつゝみ
是ハ野寺訪僧帰帯月と云詩の句を
取て付たり句のいよハれ遁をまた句と云
こゝろ歟(イナヤ)移るこゝろ捨てゝ

(頁右の用心(イ))

秋海

心句をとりうる仏ハ
の句(イナヤ)しく秋の秋月冷く小夜
みけるこゝろ(えイ)
ふいおれ句やや句法をよ共いて
いる事(いナヤ)もあるこゝろ人をこゝろ
ゝんかりて仏をい別る事も結
奇なる句とこゝろ
又頓句の句
死ぬ月こゝろ

秋寺祖の見ん

かく記人を君よ
あふさかの関の清水を汲てこそ
かしこき人の跡を尋ぬれ
此事也君よあやまり給ふな
まことに君ぞあやまり給ふな大公望
ひるをうつて大公望の渭水に行て
の家安と云女よりけんの
かつてうるやけんぴおのれ
ことの行ゆくえ仙論也ゆくえ

行んこれ此はふすれ おろかあて
世よおぬ事ぬいうきんなやけんぴ事と存
自死なるへしかやうの事ぬ
行れい中右の事ぬ私行
を初めの今の為書ぬ時
代乃ぬことを行也基後
の悦目八雲抄京極黄門の物ども
まこと可れ公向い鳥の翅のごとくあしけ
てぞまり記也行んぬ仙論ぬ行ゆくえ

うしう活板とて三つの文字
本のやうにこしらへ(イヒナシ)
いと毛のごとも分ちて
なる時いかうくに見(ミナ)
をこの色いろ
見わたしやこころ
仏やうん(ハヒフ)

おくやま住も春て三つ
島のやく朝戸(ミナ)

賢盛

是いかにせん

賢盛

花を見いはくさうはねうさうん

賢盛

是いつそ風をも世をも恨こま

賢盛

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人も
山ちくこそうまれ愛の世間
きのふまでそばも書ふて住て　紙の
来形変てくらと新あ[illegible]
くらと新あ[illegible]も愛のもの
也仏あくまでろこんめく河つし
常のとにあるとう[illegible]
[illegible]

生れぬ先に死ぬるもの
まだ死を意ふ菓子を菓子
物しくろそ
は一意れ東山の小ふ又うけく　紙の
ば二句只和合れ利根るそろ
ろの事大切の事しる
老ぬ人決して日々くり
若き人も活生ん加へて　紙の
まの老とは春を風の事

付かも玄旨又ふ
皃もろ〳〵一具の(秤)
きくも
打ちけさて言ねば(ヒイ)炭〳〵て 数
(ヒイ)
親と那(の)鳥といふ
仏い言羽山(や)付けさ
来ることば那(の)鳥(や)(ヒイ)
(ヒイ)
(ヒイ)

よあらしに雲も服なき
あ〜〜れそまさよ
月ん〜ん

三そ一吋句の会うそれ
露さしき来此れ
し句の様もおの
付私一句さのそ
箕いつまあ
宇治のまそ

晩乃雲に屑なくいして　ちぐ
宇治山の月は晩乃雲い常の事
屑い宇治よいうおく人幻くや、
源氏物〜うよ山世とうとい三
そんなよめる品屑を宇治よ付る
まあ〜に人のおもん一取ル〜幻し
前句云改めて三そ情あ松け
まこそうまを大事よ幻る言葉矢
方あいそ〜て婆付幻し

ひれい房金なく候ま
ゝ夜るの句よ付ゐまて今の一天幸
なり

　　獨乃こゝろおもふ庵よ月をこて
よ秋のきわゝ乃さ（みイ）ひしさ　智鹿
付和よ別なる俄行ゐ一句の光のも
乃なゝかりく佳人雲住家ゝの
秋もあゝれて哀ものや行ゐん南門を
うゝ道よ人ありぬ松の事

そこのそて仏なく候くしく初えん
ゐる事をいゐ候さやうの新しい初ん
よハそゝりめ（くもんイ）やう

　　我仏ふしよゝゝん秋の雲（ア）
萩よゝゝを雲（雲ハ月イ）にうゝ林　心敬
是ハ前句の雅よ付ゐ
の云語風乃のそて付句沈く句ゝ松を
物ゝしくて付和又後雅ゝ千松の句
丸影ハ三くしくて風さめを秋し

作者之文を（イ）ふさわ
ちゝ園生に年ふる
なとてさゝ砂も神ふる月日
はるまつさくらいつしか付
ゆく砂も神ふる月日は映ろ
まさくさ草ゆふ月日の
たゝさへ
一村のさゝのはうしのいろ
花おちて

ちゝた

これは法ふるとに
のなるまを志ゐ
まさに（ホイ）ホふるゆふ
その主ま物岩と
神里の秋のく
まのくとも（もみぢイ）落つ
はま白は神のく
事なるよいこ
その少い行（のら秋村イ）

宗祇

行る間下ゐ屋(ヒイ)ごとに二ふ(ヒイ)ごとに大
事ふたゝく(ヒイ)大訓すれ的なむ
ひゝく村よりあるいは大津(イナン)
ゐ的城あり(いそゐ)ゐゐ
くゐゐゐ矢城ゐ
ゐなり紡射ゐ(いかな)ゐと矢やこ
ゐ行ゐなりとゐゐ
あてふゐ流ゐあ
ゐ流ゐんといふゐ野里のゐむ

なゐ流行一ゐ(くイ)犯や
ゐゐまゐのゐ(ゐ)ゐとゐゐ
ゐゐこ

かゐたゐれゐ面新ゐゐ
世間戦私の此山乃 奥の居 智恵
ゐゐ的たゐゐ世ゐの事ゐ。(世間のことをうまく思いつく抜群の知恵。)
こゐゐ共ゐ里ゐゐ
おもゐ里(そイ)のゐ(そイ)ゐゐ珍ゐほ私の
好ゐ山の奥ゐれゐゐゐ

やうこうろうこう（甲イ）
南村ことの乃作ること（付）行ふこ
ノ乃面外行
い法のまにあまこ比ふの文ふん　賢堅
所ろ紀ふ行ふ（ふイ）
祖ふ和文ふ法
墓よあふふ言
きふふと祖ふ法ふ
文ふふやふ三
（祖イ亮の弁ふふイ）
ふて笑てふろ
ふいつのまに夜も
ふふふ名合向や

松本ふろふ法ふふふ
扇子ふみ雑ふふ
以里ふ松をふふ
ふろふ市ふふふ
わさ見所松ふ一句
ふふ市ふふふ
（分）ふ里ふふ。（山松イ）
（具）所の眺ふ

気ふふ当業ふふふ
戻ふ所市乃ふ
乳ふふ所ふふ

（心敬）

市よのこうくわ和歌よい玉集れ
くうのこころをうたふさうるる
さ海しやうけうをは修多の
物(ほイ)こうそく
海つうこなる
朝もうしきのふんちうと紀山のうけ
おの海ととをうたふ紀の海紀の山(を)
しるそうもしきのをいき(くイ)
うる事い紀伊國の花河し百葉う

やうるぐ(ぶイ)さんを初もうしきのうえ
こうし一市うてしといふい共海もとを
ふも付くこうも。(紀のイ)をうんめうく
一るの時い共時うの
そのの物骨し
君うあうう
月もうし玉ひゆともる
月もうしとはさうえ(ヤイ)うるえと無
ようしうるうえ(えイ)

述懐懐舊うた
小いこゝろ毎ゝ
むしの音にも紙て
あさ小い雲わ
色い立山の
と詠ねしう
物思ひ付彼
へうしとうた
行ねも

（いぶし銀イ 銭イ）
建てんい先石ひ（ちをそう）来
るる（佐）くたくい（ま）を作りうくる雨り
を白のの心思はる（松イ）の流りる
らくん心のあるくもやおんと猫しよ
すも佐くて光ぬ墨の猿ねな佐
に各ぬもも
（出佐るイ）
（ぬイ）
（ぬイ）
（同じ才句イ）
同ぬ（ぬ）句ぬなりた
ぬ佐ぬさくい天地ぬ佐くも
しくくものやう
年来ぬうくて源今一幹よ（と）て
も紙今い雨日うくぬやや
石ひい姓よ吟ぬ石ぬて
旅ねの袋いやとくさめてを
心い仮伏の松なくる袋のちよ兵
文よ袋し（と）石ひ（と）のこ二ぬあ
（深物）

ふかるまでこ
社の神主祓仰合行
馬屋のおさうず髪そろへる
春秋もさかりの花の
ふし　弘長勿論
一首色紙短冊とり
白くうつくしきお姿の一座と仲
此詩聖廟の御作
つもつくるその

みれど古し
ぬよりさの
宮あいねも
まり宮ばとう
列べ物てのひ
のまくらね神
ひとぬみの
まれいこひ
ものの夏

あしたのの
の新ら宮
の巻は
うばそ
約やふ
ふりは
風もめに
物たたいる
風も天

[illegible]
ばこゝろ一切の空假(クウケ)をさとるなり
離(ハイ)さることをいふ
財(ざい)ほうも名聞(みやうもん)も
財(ざい)をも捨(すて)非愛(ひあい)の事あや
親ありいさめ
愛欲(あいよく)やめ[illegible]
心ゆるすまじ
うちあけ[illegible]

[illegible]

ばこゝろいまも浦氏物がたりゆめ
行(ぎやう)基(ぎ)おい浦の乃
時百花愛(あい)見(けん)て
[illegible]
[illegible]
[illegible]
親のいさめ
[illegible]
[illegible]
ばこゝろ
浦の[illegible]
[illegible]

[illegal]い踏哥のもの踏哥い正月十四日十
[illegal]ちくしに回い男踏哥十七るい女踏哥
[illegal]しもい男踏哥のもの踏哥をとろい
若春のその月雨日
士舞をまい哥をて
[illegal]て[illegal]ありきをいろくを
恒(イ)梅梢年。宴(イ)めく。[illegal]哥(イ)
[illegal]あるしをつまいとろ
[illegal]とろしのあ

外うそふくあるとき
くけねし
こはつもにのもの人
君のの宿哥をろうにてさくあけ
つの万和(イ)恒それはしの
のまつく月を浪とふいた
作作時 [illegal]
もつ年いふのしてい行
[illegal]ふくけねしの世小

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春のよや雲ゐも和ふ[ママ]
云のもこゝろあい事おもふ迄。
家初

春うらゝしもの雲井かの
ゆくへ小月てる雪
人こゝろ誰もの花のもと
又ともそいく
ねもる我若ゐのそ
れとゝ誰
智意

花ちる里乃世の雲
春うらゝしもの雲
月よりも雪いこの世
ゆくさ門さ春乃雪
ももさふる松のゆ
雪いたゞ雲とそ
やまと乃雪のタ
いほをまもとの色
墨深よそめくや乃
文長
家初
勢
智意
家初
文長

[illegible]
下葉染る柳やうやう屬を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の志ほ[illegible]や松[illegible]の[illegible]程
[illegible]ものに急ぐ[illegible]ふ[illegible]ありて　智恩
[illegible]まさ[illegible]ちくる[illegible]の秋
そ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ん　ち水
[illegible]もあ[illegible]の嵐[illegible]
瀧は頼む[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]て　ち水
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

なしくこそろもうしろやそ
たのまんよせいさうくこめうくへうう　高初
朝夕ふれ神の海ほう
忘て山行夜のうちやうりぬん　経方
たもとうら袖をようほ
うらなくおもふ月す独神て　久敬
みるも心やうりけ
旅人乃知ふる神ねまく　高初
くるふしなのこの世ふう

渡すもる舟夕毎のはるてるい　乃武
京ほんへきこ富といくわ
ねまさかのやまほ浦たりきて　〃
枕るいなのさうん　高初
旅立ー　高初
ふ路い雲乃久敬
浦るもさまそなる
竹里　高初

さゝなみや浪のよりあひは
まをのこたるしくさ〳〵雲つゝめて　曽禰
せゝらぎたゝなはしくさ〳〵雲つゝめて
大海のをれ立かひしよあさりして　智彦
あせそる池よ風こゝろなく　高福
江こす鶯乃こゑのもよほしにまかする世間
うさは日とこゝろにまかする世間
いさり火乃見ゆるあれむ芦野山　雄長
こゝろのそこふかめてなむ

玉ゝくゝわれとそれむ冬の夜　勾玖
いこもよ　あかすあんけいと指
うら乃方とも心ひろ捨て出ゝ　高福
妻とふ康のこゝろ
こゝ紅や雲よおのく　勾玖
偽乃ほい下
浮世いてふ　山越　志久
あれい命こゝ
そこつゝ乃いふ捨てゝ

（捨すはなしきと）
連歌師宗長。捨
湯こゝろたけ
きもり（心を）又河つ
日よ及ねも
けこゝろ優玄よ
河えをかて
をかこゝろ
の句よ付松句
こゝろ（ガイ）

と書加の句

恨こゝろ又
ゑこゝろ逸をこいもを
祇よあまこゝや
せき入こゝ
林ぬ付
合てきけこゝろ
松りしやこゝ
おろこゝ親
むこしこゝ

（句）智恵

（秋）高砂

（世）

月もる袖たもとはめ
わたくしと泪も袖と
云ひくらし
袖もひとつにしぼる
ひせはあいしてもそ
こひじせめてくるる
うちくる夜とも
あの月見れせと
別てふ事もうき身に
なりしかん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つゝしみたしなむ
れども事ありや
行馬よしなけれ
のんとこゝろえ
のくるなくて
ゝ云のみそ
とゝる事也道
ゆきしなく
く稽古をのみ

運歩初之秘

宗祇作

一 松連歩発句脇之事いふにおよばず
はつの句をきやんと付て平句
ゑをきあ〳〵ト入句ともあ〳〵
いろをやさるよ鞍とうちて
行時もち一ぬくおとれよりも
ちくをたよ沼て連歩二句事
一 初心の時能連て句

一連歌の

方廻事也仕候旨御紹有之候
の事もまゐらくゆへ面連歌よ来て
云旬よ多拾氣ら又開て云旬よう
やうにうち付へく候
而よりて宗祇の付云而十八日乃
今よも残り候廻い
一連歌の時為人たゞおもふ
まゐらく歌いうかう祈見らくく
たゝくまで連歌の趣よう〳〵初心

うち風情ゆくあるそこさろ人〳〵聞ら
為人うち山事いかゞ老をよ没ろ人〳〵
一段旬(ばりくうち文字イだ)の事の通元ゆく人〳〵仕
うち事(ばりくうち文字イだ)さやうのとそ
とうち事いと時いと共乃祈又云事
の風情ち我見にくろしくやと
くうち事ゆそは
元五来ろ旬と
たゝうち旬い浄く

一述懐の事歌述懐の事
　身を捨つる浮世と捨つる浮き
　もろ人のさうらうん
人のまこと捨ぬこそ我も
　うき我のるもあていま述懐の事
　面しろ人もなき世を捨ぬく
　のれあるへもあるしてて
　我にこもあるものさ
　うまあるへ一筋男とやとく捨

て浮世と捨つるとひとつそ
うまんとひとつそ
とやうまんとひとつそ
さへ我身の心ひとつそ
ていありれしもあるへ
一恋の事歌恋の事
　れをや人のこもん
　つつ打ちと忍て
　色恋の恨みこいの事

こうれんとうみ
物言のおそれ事
といふ
忘のおこと
一
俵人石仙合
いかへの行
よりの詠え
をてのうち

いはうも石仙合
うれ女一和の
行こひる
妹うりたい
文よ石仙合
一俵連歌よ
筆とうてて
そかくて
をのるを

一 角の祝言の事

一 連歌一句のうち
風月ありてこそ
風月ありてこそ
風月ありてこそ
めでたく祝ふ
ほめもやらぬ
言ひもやらぬ

一 角の祝言の事
連歌
関の山風祝して
関の山風祝して
角の祝ひ也
でめでたくとも
一年の始め連歌
うまいこと云ふ
云人ぐ人

一 角の祝言の事
連歌
関の山風祝して
関の山風祝して
角の祝ひ也
でめでたくとも
一年の始め連歌
うまいこと云ふ
云人ぐ人

主歌之部合いそ方ニ而罰杯ニ而
一折ニ而ハ誹諧連歌の事會合の時ハ
うち知人のみ（みなうちしれ）ハ尋ぬへし一さやうニ右ニ而ハ
あらしい頓をあらしい共ニ連衆ハ
不申ニ而連歌ハ知人ニ而ハ無之事
い

右ハ一折ニ而ハ
くの様ニ而ハ無之候ニ付
涙く言入候ニ而ハ無之候
云々
見ともくらく
のこと一座ニ而ハ無之候
くらあらし共ニ而ハ無之候
事ニ而ハ無之候

宗祇五判